

「ともに高まり合う仲間づくりを目指して」

川島 浩明
京都市立白川小学校 教諭

1. はじめに

当校では、5年生で、ともに高まり合う仲間づくりを目指して、徹底した学級集団づくりにこだわり、「本音を話せる仲間づくり」を基盤におき「自分の進路を自ら切り拓く力」を仲間との関係の中で身に付ける学習活動を設定した。

そこで、2004年度より、総合的な学習の時間において、トレードフェア2006への参加を目標に、「バーチャル・カンパニー（仮想企業）」による商品開発という学習活動を展開することにした。この学習では単に商売体験をするビジネス教育ではなく、アントレプレナーシップ（起業家精神）の育成を目的としている。そして、こうした教育プログラムから望ましい職業観・勤労観および職業に対する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てるキャリア教育の視点に立つてのアプローチを心がけた。

2. 取り組み内容

<確かな学力を目指して～話す・聞く・書く～>

5年生は、確かな学力を目指して自分で調べるよさ・仲間に伝えるよさから自分を知るよさ・仲間を知るよさへつなげることを根底において取り組んだ。

2.1 テーマ設定

「バーチャル・カンパニー」ではまず、どういった会社を立ち上げ、どのような商品を開発するかについて『社会貢献』をねらいとしたテーマ設定を進めることにした。導入の段階では、日本社会の問題に目を向け、現代社会の歪を一つ一つ認識していくことにつとめ、身の回りの問題や自分たちが生活している問題となっていることなどをフィールドワークや聞き取り調査によりまとめていった。そして、そうした活動から子どもたちが設定したテーマが「人と社会をつなぐ『もの』」である。

2.2 グループごとの課題設定

あるグループは障害者問題に目を向け「障害のある人にとっての住みよい社会」を考え、またあるグループは人権の視点から「いじめをなくすためにできるこ

と」を、そしてまたあるグループは、高齢化社会に目を向け「お年寄りにとってやさしい社会」を考え、さらに、子どもの安全に注目したグループは「子どもが地域の中で安心して生活するには」といった課題を設定し学習を深めることとなった。またこの学習形態の基本として、グループ活動を位置づけ、グループでの調べ学習・討議、まとめなど自分たちの考えを常に戦わせながら進めていくことのよさを最大限にいかす過程をたどっていくこととした。

3. まとめ

今回の「バーチャル・カンパニー」の取組では、全ての過程でグループ活動を基盤に進めさせたことで、調べる内容から方法、討議やプレゼンテーションにいたるまで納得いくまでお互いの意見を戦わせ、まとめ、創り上げようとする意欲に満ちた学習活動となった。まさにともに高まり合う仲間づくりの学習である。また今回は、ゲストティーチャーに学ぶ機会を設け、企業家の評価を受けたり、先輩のアドバイスを受けたりするなど本物との出会いによって、価値観のぶつかり合いを経験し、取組をさらに深める課題を主体的にとらえることができた。

今回のキャリア教育の経験がどれほど自分さがしや自分みつけの営みとなったのか？確かなことは、そうした経験が価値観を形成し主体的に選択決定する力を養い、自分たちの生きる社会がよりよいものであらねばならないことに気づく営みであると考える。

6年間を終える段階で、自分の夢や希望をしっかりとめて、堂々と仲間の中で言い合える関係を豊かな人権感覚の中で築き上げさせたい。